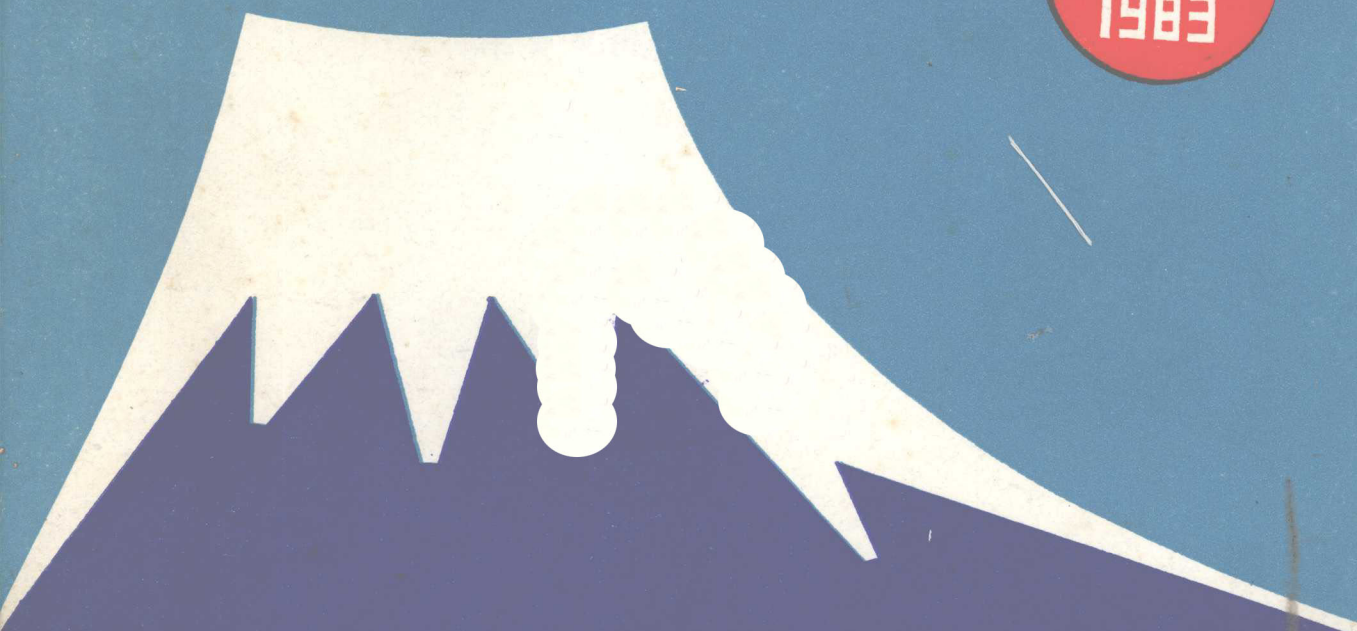


中央电视台电视教育节目用书

星期日日语

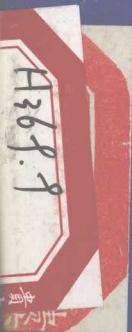
1
1983



日曜日の

たのしい

日本語



中央电视台电视教育部编

广播出版社出版

中央电视台电视教育节目用书

星期日日语

日曜日のたのしい日本語

1983—1 (总1)

中央电视台电视教育部编

江苏工业学院图书馆
藏书章

广播出版社

星期日日语83—1

〈总第1期〉

中央电视台电教部编

广播出版社出版

外文印刷厂印刷

新华书店北京发行所发行

1983年1月第1版 1983年1月第1次印刷

787×1092毫米 16开 印张4.5 字数105,2千字 印数1—35,000

统一书号: 9236·015 定价: 0.51元

编者的话

《星期日日语》电视节目，自一九八二年五月开始播放以来得到了广大观众的支持。我们从现在开始，编辑出版《星期日日语》文字材料，作为观众观看电视学习日语的一个辅助手段，以便更好地学习日语。《星期日日语》将不定期出版，一般约三个月出版一期。

《星期日日语》电视节目是为了给已学过日语的同志提供一个日语视听练习机会，以求巩固和发展已有的日语水平。它不是一个有步骤的外语课，更多地象一本综合性的日语“杂志”。它将使观众在学习语言的同时又得到有关日本社会、民族、历史、地理等各方面的文化知识。这些知识，在一定程度上可以说是切实掌握一门外语所不可缺少的。

学习一门外国语，许多人都经历了或正在经历着发音、掌握单词和语法、背诵、记忆……需要有相当毅力的艰苦过程。《星期日日语》不希望再给观众增加这种负担，它是想从另一方面给以补充——以大量的、生动活泼的、在实际中使用的、形象的语言，并寓文字和文化知识于乐趣之中。这也是“泛读”的一种形式。而“泛读”是学习外语所必需的。对于有一定基础的人，大量“泛读”实际上是水平能否提高的关键。

《星期日日语》既是一种“泛读”材料，学习时就不必逐字逐句去精通它，更不要去死抠语法，主要是快速地阅读，抓住其主要的思想和故事情节。对于电视节目，我们希望大家也这么看待它。当你看节目或快速阅读文字材料时，脑海里直接在勾划着故事的情节，当你突然发现你不是在学习文字而是完全陷入了故事情节中去时，你的收获也就大了。这种学习，和记单词学语法不同，但又是相呼应的一条道路，走这条路也要有坚韧的信心与决心。经过一定的磨练，通过这条道路，相信你能够到达自然掌握日语的自由境地的。

《星期日日语》的侧重面应是听力的练习，希望你尽可能不事先读文字材料而先看节目。看你能听懂多少。先看后听则难以分清是“看懂”的还是听懂的。文字材料可以帮助你多学一点，但过分地依靠它却

将实际上妨害视听能力的提高。

《星期日日语》电视节目中将播放日语原版片，在有条件时，我们还将录制一些座谈、采访节目。这些节目比起教科书和课堂来，是比较难的。我们不能要求一般同志一听就清清楚楚全都听懂。但我们也觉得有点基础的人多少总能听懂一些。今天听懂少一些，明天就会听懂多一些，日久下去就会基本上都听懂了。耳朵是要训练的，训练的最好方法就是让它去多听。

“世上无难事，只怕有心人。”让我们共同努力，学好日语，为了祖国“四化”的需要，为了使自己能在学习祖国的事业中多贡献力量而奋斗吧。

日本驻华大使馆和日中协会为《星期日日语》这本书提供了许多材料，促进了它的早日出版，我们在此表示衷心的感谢。

中央电视台电视教育部

1982年8月

目 录

1. 金環蝕 (金环蚀) (1)
2. 東京——大江戸の春 (东京——大江戸之春) (46)
3. よこはまの詩 (横滨之歌) (52)
4. 京都 (京都) (57)
5. 古都奈良 (古都奈良) (62)

《星期日日语》每星期日下午三时起由中央电视台向全国播送。

金 環 蝕¹

(ある公会堂)

ナレーション²: 衆議院二百九十六名、参議院百四十五名、両院で過半数の議席を占める政府与党、民政党総裁の椅子は、そのまま日本国内閣総理大臣の座につながっている。

その椅子を賭けて総裁選挙に出馬したのは、党内最大の派閥を背景にした酒井和明と現総理、総裁の地位にある寺田政臣であった。

ナレーション: これまた総理総裁の椅子を狙っていた党人派の総帥³ 広野大悟は、次回を期してか終始、寺田派の応援に回った。民政党総裁選挙はこうして完全に党内を二分する激しい争いとなった。

小 野: 寺田派は、今朝までに十七億ばらまいたらしいな。

島 田: 酒井の方は二十億さ。陣笠⁴や地方代議員は御機嫌だよ。一票あたりの相場が二千万から三千万にはね上ったってね。

小 野: 寺田と酒井の両方から、ちゃっかりいただいてるのもいるらしいな。ほら、あれだよ。

神 谷: ああ、おい! いくらもらったんだ、ええ?

委員長: 投票の結果をご報告申し上げます。投票総数四百八十七票……うち寺田政臣君、二百四十八票!

群衆の声: おお、万歳!

委員長: 以上の結果、次期民政党の総裁は寺田政臣君と決定しました。

小 野: 三十三票の僅差⁵だな。これすごいな……。

島 田: 酒井にもらったんだ。

小 野: なんだ、あんたもか。

島 田: ハハハハハ……。

(首相官邸)

ナレーション: 五月二十九日、内閣一部改造。第三次寺田内閣は昭和三十九年⁶五月三十日、宮中で認証式を終わった。副総理として入閣したのは、寺田の総裁当選に決定的な力となった広野大悟である。

(石原事務所)

職員: はい、石原商事でございますが、はい、さようでございます。は、その件でしたら、明日、伺わせていただきます。

脇 田: どうぞ。

職員: はい、そうですか。どうもありがとうございました。

(石原事務所・社長室)

西 尾: 初めてお目にかかります。内閣官房秘書官西尾と申します……。

実はさきほど、官房長官の星野からお電話を差しあげた通り……少々内密のご相談が

ありまして⁷……。

石 原：金の話かね？

西 尾：実は現金で二億円、大至急用立てて頂きたい⁸ と長官が、返済期限は一年ということで……。

石 原：利息は……。

西 尾：それは……。

石 原：担保の方はどうしようと言うのかね。

西 尾：私はただその、石原さんのご内意を伺ってくるように言われた⁹ だけでして、もし、ご承知下されば正式の条件は長官が直接にご相談を……。

石 原：どうだろう？ 国有地を担保にする¹⁰ことは出来んかね。

西 尾：国有地を……。それはどうも……私には……。

西 尾：いかがでしょう？ 条件の方はさておき¹¹お引き受け頂けるかどうか、せめてそのご返事だけでも……。

石 原：星野さんによろしく。

(石原事務所・奥の部屋)

石 原：つまらん番組なぞ見るんじゃない。近頃、電気代の払いが多過ぎる。

加代子：気を付けます。ねえ、近ごろ随分ごぶさたね。

石 原：何だ、まっ昼間から……。

加代子：んー。

石 原：おい、飯粒持ってきてくれ。

加代子：はい。

石 原：事務所へ行ってな、荒井と脇田にちょっとくるように、そう言ってくれ。

加代子：はい……。

荒 井：お呼びですか。社長……。今度は何の調査ですか。

石 原：これを見えろ。

荒 井：官房長官の記者会見の写真ですね。

石 原：今、二億円、闇で¹²貸さんかと言ってきた。その証拠がこれだよ。

石 原：選りに選って¹³わしんところへ駆け込んでくる位だから、どうせまともに使う金じゃあるまいが……。

石 原：他の仕事はあと回しにして、二人で今からすぐにとりかかってくれ……。星野の動きを徹底的に調べ上げるんだ。何日にどこへ行って誰と会ったとか、何をしゃべったとか、何を食ったとか……。それからどんな女と寝たかもだ……。金はいくらかかってもいいぞ。三日ごとに報告書を出してくれ。

(赤坂・山王辺り)

小 坂：ハッハッハ、これは、これは、お稽古のお帰り……。

(赤坂の家の一室)

萩 乃：はい！

石 原：金はずっとやってるだろう？

萩 乃：やっていますよ。月はじめにちゃあんとね。

石 原：お前は？
萩 乃：あら、すみません……。
萩 乃：はい！
石 原：……五月二十四日、電力開発¹⁴財部総裁と青山組¹⁵社長……。菊の家¹⁶か？これはお前のお座敷¹⁷だな？
萩 乃：ええ、二人っきりで長い間……なんだか大事なお話だったみたいです。
石 原：同じく二十六日、芳村¹⁸で電力開発の若松副総裁と竹田建設の朝倉専務……。
萩 乃：そっちの方は大勢さん¹⁹で賑やかでしたわ。でもねえ、朝倉さんのお座敷だって言うとかげやがるんです。だって土建屋さんまる出し²⁰の……。
石 原：おかしいな。小坂のじいさんの方も日にちと場所が少し離れてるだけで、顔ぶれは同じだ。……福竜川ダム²¹か！

(霞ヶ関²²・あるビル——その玄関に電力建設株式会社の金属プレート²³)

ナレーション：電力開発株式会社は北海道から九州に至るまで、その主な川筋に巨大なダムを築造し、発電所を建設し、エネルギーを民間の電力会社に売ることによって成り立っている。
ナレーション：その資本は九十五パーセントまで政府の出資により、年間四百億の補助金を通産省の予算から支出されている。言うまでもないことだが、この莫大な金額はすべて国民の納めた血税であった。

(電力建設株式会社・会議室)

財 部：諸君も御存知のように私は電力開発の総裁として二期、六年を勤めさせてもらってきた訳だが、この九月の末を以て任期を終ります。ハハハハ……もう年ですから、留任という事態は起こらんだろうと思う。ハハハ……

財 部：…そこで口幅ったい言い方だが²⁴、言わば電力事業に生涯を捧げてきた私の最後の仕事としてですね、今懸案になっている九州福竜川ダムの問題だけは是非とも片付けて行きたい……これが私の念願なんですよ……。もちろん工事そのものは時間のかかる仕事ですから……後任の方にお任せするとしても、お膳立て²⁵だけは何かも自分の手でやっておきたい、そう考えている訳です。

財 部：いろいろ研究の結果、私なりに大体順序をまとめてみました。今日は一つそれについてご研究を願いたい。

小 島：総裁、順序といいますと、当然業者に対する机上説明²⁶の日取りも決めたいとおっしゃるんでしょうな？

財 部：もちろんです。

小 島：しかし、そういうことは役員会の前に資料として出して頂きますと、基本的な設計は私の担当ですが、一体どの位時間がかかるのか、あらかじめ研究さしてもらわんことには、どうも……。

正 岡：小島理事のおっしゃる通りです。岐阜にある百二十五メートルの御母衣ダム²⁷……あれより大きな工事をやろうと言うんですからね。見積り書の提出にしたって、地質の研究、付属工事の研究、資材入手の方法、工法²⁸の研究から始めなきゃならんわけですから……

原书缺页

男：社長！お帰りなさい。

古垣：もうみんな帰っていい。

滝子：やいてるの³²。待ってるわ、いつものところで……。

古垣：わかったよ。止さないか、おい。

滝子：なるだけ早く来て……じゃお先に、社長さん。

欣二郎：そろそろボーナス³³出してくんないかな？社長さん。

欣二郎：世の中、大した景気だぜ、寺田内閣の所得倍增計画とかって奴のお陰でね。

古垣：お前、また悪い癖が出たな、欣二郎。

欣二郎：……

古垣：北京楼³⁴の広告料、それに中央生命³⁵の分も勝手に集金して使いこみやがって……。よく考えてしろよ。ろくすっぽ働きもしないお前にな、毎月給料くれてやってるのはなあ³⁶……。

欣二郎：おふくろ³⁷が違ってても血のつながった弟だって言いたいんだろう、え？

古垣：そうだよ。

欣二郎：わかったよ！

古垣：おい、欣二郎……！

古垣：はい！日本政治新聞社。ああ、古垣だが。こりゃどうも、石原さんでしたか。電力開発の財部、ええ、そりゃまあ、一応、うちの新聞にゃ時々賛助金を……あ？福竜ダム……？

(石原商事・奥の住居)

石原：ええ、九州の福竜川に今度こしらえようってどでかい奴³⁸さ。んー、工事の請負い³⁹についちゃ、いろいろあるらしいがな。君の見通しはどうだい。

(日本政治新聞社・社長室)

古垣：ええ、まあ財部の留任問題もからんでますけど、ま、第一候補と言えば青山組でしょう。四年前に駒井ダムを青山組が手掛けて以来、財部とは、曰く言い難しの関係⁴⁰ですからな……竹田建設⁴¹ねえ？まあ脈がない⁴²でしょう。ええ、財部とはウマが合わん⁴³様だし、あそこのやった高尾ダムには水漏れがあると騒がれましたしねえ……星野？あの官房長官の星野ですか。あの男ならこの件と関係ないでしょう？それとも何か……。

石原：何かとはなんだい。毎月情報集めの金を出してるのはこっちの方だぞ。星野について何か入ったらすぐ報してくれ。どんな些細なこと⁴⁴だっていいからな。ああ、じゃまた……。

荒井：社長、失礼します。あっ、報告にまいりました。

石原：ご苦労さん。

加代子：ねえ、テレビ見てもいい？いいわね？

テレビの声：かかさん⁴⁵の名は？

テレビの声：おゆみと申します……

石原：……葉山にある別荘？

荒井：官房長官は二日前の晩、赤坂の光本で中沢証券の宴会に出ましてね、そのあ

と、ハイヤーで真っすぐそこへ乗りつけたんです。

脇 田：ブンヤ⁴⁶はまだ誰も知りません。

石 原：仲々面白そうだな。ええ星野が別荘を手に入れたのは去年の暮か？ 去年の暮、四百坪の土地に建坪⁴⁷三十三坪⁴⁸の平屋建て、時価四千万円⁴⁹と評価されるか……。

荒 井：しかも名義は星野じゃなくて、山瀬みつという女になってるんです。

石 原：山瀬みつ……？

脇 田：ただし、六十六歳の婆さんですよ。

脇 田：昨日、横須賀の法務局で調べて来たんですが、去年までの持ち主は日東電工の原本社長……贈与税⁵⁰は山瀬みつの名前でチャンと納めてあります。

石 原：こいつはますます面白えな。日東電工の親会社⁵¹は竹田建設じゃないか。

脇 田：はあ？ そうだったんですか。

石 原：いいから、もっとこの別荘を当たってみろ⁵²。第一にその山瀬みつと言う婆さんと星野との関係だな。星野は誰と会うために別荘へ行ったのか……。

荒 井：承知しました。早速当たってみましょう。

石 原：きっと、何かが出てくる。フッフフ、しかし、なんと世の中にゃ一から十まで俺と正反対の人間がいることか。え？ そうは思わんかね。荒井。

荒 井：……？

石 原：星野という男よ。おい、もうちょっとちいさくしろ！

加代子：え？ フーン。

石 原：あのと通りの若さで、しかも色男⁵³ときっちゃ芸者⁵⁴共が大騒ぎするのも無理はなからうて。

石 原：長野県の名門中学から一高⁵⁵帝大法科⁵⁶を首席で卒業か、大蔵省へ入ると当時大蔵大臣だった寺田に見込まれて⁵⁷秘書官となる……有名な外交官の娘を女房にして、当選三回、内閣官房長官となる。

加代子：あ…あ…。

石 原：それに比べて、この俺なんぞは静岡の貧乏漁師の小卒⁵⁸で、ろくすっぽ中学にもいけず、この年になるまで女房も……。へへへへ、腕一本で金貸し⁵⁹を始めてから、へどが出るほど泥水を吞んで来た⁶⁰。前科四犯⁶¹。星野のやろうなんぞはおまえ、臭い飯⁶²の匂いも嗅いだことはねえだろう。

(首相官邸・一室)

若 松：あっ、どうもお忙しいところを……。

星 野：どういうお話でございますか。私は電力関係は一向に不案内でね……⁶³。わたくし、十分程しか時間が無いんですが。

若 松：あの、実は、その……。

長官も竹田建設の朝倉専務からお聞き及びのことと思いますが⁶⁴……

星 野：竹田建設の朝倉……？

若 松：さようです。例の福竜川ダムの建設につきまして。

星 野：話が要領を得ませんな。

若 松：いや、ズバリ申し上げればですな⁶⁵、福竜川ダムの建設工事を朝倉専務は是非

とも自分のところでやりたいと、こう申しております。もしそうなれば、竹田建設と致しましては、その……、相当の政治献金⁶⁶をする用意があると……。

星 野：ほう、誰に献金なさろうって言うんですか。

若 松：もちろん……長官を通じて寺田総理に……。そういう訳ですから、要するに工事を竹田建設が請負うと言うことで……。長官にもなんとかご尽力をその、願えればと……。

星 野：しかし、私は電力や土木の関係に口を出すような立場じゃないんですがね……。私がかりに竹田を指定したって入札⁶⁷で外れたら、どうにもならん話じゃございせんか？

若 松：ま、原則としてはそうですが、入札には色々と裏もございます⁶⁸から……。

若 松：長官！ 私は承知しとる積りです。この間の総裁選挙……長官がそのあと始末のため⁶⁹、竹田建設に対しては、ご自分から献金を希望されたと……。

星 野：ではこれで……。

(料亭「春友」)

朝 倉：ああ、若松さんですね。お待ちしておりました。どんな工合でしたかね、官房長官のご機嫌は……。

(あるマンション⁷⁰・一室)

若 松：どうもこうもありゃしない！ ⁷¹

(料亭「春友」)

朝 倉：お腹立ちはごもっともですがね、あの星野っていう人には元々ちょつと厭味なところがありましてね⁷²……。用心深いって言うか、初対面の人には絶対に自分の腹を見せない⁷³んですよ……。

(料亭「春友」・奥の部屋)

小坂老人：いや、どうも失礼しました。ああ、うまかった。

朝 倉：いつもの女⁷⁴を頼むよ。

女：はい！

朝 倉：実は今夜、総裁にゆつくり聞いてもらいたいんですよ。私の苦衷⁷⁵って奴をね……さ、一つ。

朝 倉：水力発電の大工事と言えば、今度の福竜ダムが最後になりますからな……竹田建設としてはどうしても工事を頂いて、名誉回復をやりたいんだ。高尾ダムの漏水事件じゃ、もう新聞に散々書かれちゃって、もう……判って下さいよ、ねえ、総裁。

財 部：……

朝 倉：うんとさえ言って下されば、私の方も総裁に対しては十分なお礼を考えております。出すべきものはチャンと出しますよ、ハハハハ……。

財 部：私なんぞに持ちかける前に、工事を請負うお膳立てはもう出来かかってるんじゃないですか。フン、うちは若松君がしきりに妙な動き方をしている⁷⁶……。

財 部：見返りは君、政治献金かね？ ⁷⁷

朝 倉：うちじゃね、四億の積りなんですがね、官房長官の星野さんは五億出さんかと書いて来てるんです。

財 部：……

朝 倉：まあ、まあ、そう固いこと言わずに⁷⁸、総裁も長い間お役所におられたんだし、ま、よくある話ですからね。

財 部：しかし、五億と言え、福竜ダムの工事をあんたのところへ落とす⁷⁹とすれば、献金分の五億だけ高い工事費になる……。

朝 倉：その辺は私に任せて下さいよ。業者仲間になちゃんと話をつけて見せますよ。

朝 倉：うちから差し上げるお礼の金額ですがね。

財 部：そんなものは要らんよ!

朝 倉：総裁……

財 部：私も電力事業に一生を捧げて来た人間だ。何と言ったらいいか。その……ハハハハ、晩節を全うしたい⁸⁰心境なんだよ。今度の仕事だけは筋を通したい⁸¹。あくまで公正無比な入札で……。

朝 倉：とかなんとかおっしゃって⁸²総裁の腹はちゃんと決まってる⁸³んじゃないませんか。福竜ダムの工事は青山組にやらせるんでしょう……。

財 部：朝倉君……

朝 倉：うんーん、二年ほど前でしたかね。総裁が、あの新築された松濤のお宅、あれたしか青山君が工事やつたんでしたね。

財 部：私だってよく承知しているよ。君のところと若松副総裁の関係はね。じゃ、私はこれで。

朝 倉：もう、もう、いいじゃありませんか。まあ、まあ、もうしばらく、しばらく。これ、これ、これ、おそいじゃないか。

芸 妓 達：こんばんわ、こんばんわ。

朝 倉：さあ、あいさつはいいから、総裁にお酌を、お酌をして⁸⁴。

芸 妓 達：あら、総裁しばらくでした。

芸 妓 達：あら、すいません。

朝 倉：私はこれからね、ちょっとね、仕度をさせていただきます。はい。

萩 乃：おひとつ、いかがですか。

財 部：ああ。

朝 倉：さあ、今夜は張り切っていくよ! 何しろ総裁に見て頂くんだからね。

萩 乃：また、例の芸術ですか? 専務さん。

芸 妓：一目見たとき好きになったのよ、何が何だかわからないのよ⁸⁵

財 部：さあ。

萩 乃：あら、総裁、まだいいじゃありませんか。

(葉山・ある別荘)

時 枝：誰? あんた。

荒 井：やあ、こんにちわ。あのう、私、三光堂化粧品⁸⁶のセールスマン⁸⁷でございます。

時 枝：だめよ、うちの奥さんはほかのところの使ってるんだから。

荒 井：いえー、そんなこと言わないでさ。目下お得意さん⁸⁸を拡張中なんですよ。

ね、お願いしますよ、この通り。

(同・玄関)

女：香水は私、舶来なのよ⁸⁹。

荒井：まあ、そうおっしゃらずに当社の製品も使ってみて下さいまし。今日は、製品の宣伝だけで、お代は頂戴致しません⁹⁰。何でもお好きなだけ置いて参りますから、一つ十分お試しになって。

女：あら、そうなの。うーん、そいじゃあね⁹¹、香水と……。

荒井：はい。

女：クリームと……。

荒井：はい。

女：そうね、化粧水も置いてってもらおうかしら。

荒井：はい、どうぞ……。やあ、しかし、立派なお宅にお住まいですねえ。奥様はもう長いこと、こちらにお住まいで……？

女：えっ？

荒井：え……実は大分前に、私の仲間が一度伺いましてね。その者の話では、確か、こちらは日東電工の原本社長さんのご別荘だったと……。

(近くの商店街)

男：ありがとうございました。

女：ありがとうございました。

男：はい、いらっしやいませ。

荒井：さっきはどうも。いやあ、ありがとう、お蔭でね、助かったよ。これ。

時枝：あたしに？

荒井：ええ。一つだけお聞きしたいことがあるんだけどね。お宅の奥さん、以前、確かに芸者さんだったよね。そうだろう？

時枝：まあ、よく判るわね。

荒井：ハハハハ、あいかわらず綺麗だからねえ。ええと、新橋だったかな？ それとも柳橋？

時枝：まあ、ハハハ、残念でした。熱海で出てらしたのよ。君千代ってお名前で……。

(石原事務所・社長室)

石原：熱海の芸者、君千代……？

荒井：早速熱海に出掛けて、古手の芸者⁹²を二、三人呼んでみたんですがね、中の一人が君千代のことを覚えていました。月の家という置屋⁹³から出ていたんです。ま、そうなりゃしめたもんで⁹⁴……。

石原：四年前に君千代をひかせて、去年の暮れまで葉山の別荘に囲っていた男が判ったというんだな？

荒井：誰だと思いです？

石原：竹田建設の専務、朝倉ちう男だ⁹⁵。

荒井：これはどうも。

脇田：社長には参りましたな。

石 原：山瀬みつの素姓⁹⁶はどうだ？

脇 田：三十年余り星野の所で奉公していた⁹⁷使用人だそうです。一年ほど前に暇をとって郷里の長野に帰ってるそうですがね……。

荒 井：別荘の贈与税を払ったのも、朝倉でしょうか。

石 原：ま、そんなところだろうな。名義は子会社⁹⁸の原本になっているが、葉山の別荘は元々朝倉の物なんだ。朝倉はそいつを星野に賄賂⁹⁹としてやったんだよ。自分が囲っていた妾¹⁰⁰の君千代といっしょにな。

石 原：薄汚ない話¹⁰¹ですな。

脇 田：星野康雄か、ありゃ一種の化け物だ。

(東都温泉・岩風呂)

神 谷：何だ、石原さんじゃねえか。

神 谷：あんたがこんなところへ来るなんて珍しいな……。

神 谷：景気はどうだい？ ええ、石原さん。

神 谷：金庫にゃゼニが喰ってるんだろう？ ちいっとこっちにも回してよこさんかい¹⁰²……え？

石 原：あんたにゃ、おことわりだ。

神 谷：近頃ちいっとばかり冷てえぞ、ええ、石原さん。十年前の船舶疑獄¹⁰³で、滝田内閣を一緒にぶっ倒した同志だ。ハハハハ、あんたの石原メモ¹⁰⁴ってやつだよ。

石 原：政界の爆弾男にしちゃ、近頃妙におとなしいじゃないか¹⁰⁵。

神 谷：ええ、固いこと言いなさんな、俺にだって事情ってもんがあるんだ。

石 原：へへへ、あんたの親分広野大悟が副総理で寺田内閣に入閣した……事情ってのは、そんなところだろ？

神 谷：俺ッやりたくてうずうずしてるんだ¹⁰⁶けれど、ハッハッハ。

(同・マッサージ室)

神 谷：おれのおごりだ、まあ、一杯やれ！

石 原：また若いのが一人出来たそうじゃないか。

神 谷：銀座のバーの女さ。麻布のマンションに囲ってあるんだけど、ま、いい女だ。今、一番気に入ってるんだよ、ハッハッハッハ。

石 原：今度で十六人目か。

神 谷：いや、二十四人。

石 原：あんた、毎月赤坂の事務所へ女を集めて、お手当の額を決めてるそうじゃないか。

神 谷：ええ。

石 原：神谷の赤坂会議って有名な話だぞ。

神 谷：あんただって年の割りにゃ、お盛んだそうじゃねえか。

ボ イ：こちらでございます。

古 垣：こりゃどうも……おっ、神谷先生もご一緒でしたか？

神 谷：おお、古垣君。

石原：どうも。
神谷：どうだ、一杯やれ。
古垣：折角ですが、事務所をお伺いしたら、ここだって聞いたもんですから。
石原：ええ、じゃ、お先に……。
神谷：二人で何の相談だ？ うまい話ならこの俺も一丁乗っけてくれよ¹⁰⁷。ええ、石原さん。

古垣：先生、失礼します。

神谷：君の新聞はあれ仲々ええな。え、古垣君！ あんたは正義の味方だよ。

(築地辺りの小料理屋・女将¹⁰⁸の部屋)

勝江：おまちどうさまでした。

芸者：お母さん、こんばんわ。

勝江：ぼんたちゃんはね、ええ、二階の「ふじの間」。

芸者：はい。

古垣：あっ、この前お電話があった例の財部総裁の件ですがね、最近どうも様子が変なんです。福竜ダムの建設工事は、てっきり¹⁰⁹青山組に決まると思っていたんですがね……。

石原：青山組はお話にならんねえ¹¹⁰。財部の総裁留任もまず無理だろうね。

古垣：人が悪いなあ、石原さんも……。情報を持ってきた私なんぞより、事情をよくご存じなんだから。

石原：だけどね、竹田建設という会社は、君なんか考えているより、ずっーと深く政界に食いこんでいる¹¹¹よ。特に内閣の大番頭¹¹²、官房長官の星野康雄にな……。

古垣：官房長官にですか。

石原：汚職だよ、君！

古垣：まっ、まさか。

石原：汚職！

(通産省・大臣室)

財部：福竜川ダムを……竹田建設に？

財部：しかし、どうも突然のお話で……。私と致しましては総裁の権限で出来ることと出来ないことがございますので、その点、何と申し上げたら……。

財部：ご存じの通り、電力開発会社はほとんど全額が国庫負担の国営会社でございまして、建設事業一つやりますにしても、規則で正規の手続きが決められております。

大臣のお話とはいえ、総裁と致しましてはその規則を無視するわけにも……。

大川：そんなことは君、お互いに解ってるだろう。私は初めっから無理な話を君に頼んでるんだよ。無理な話をね。

大川：今、忙しいんだ。あとにしてくれ！

大川：君も役人生活が長かった筈だね。とっくに判ってるだろうがね、政治と言うものには君、色々と裏があるんだ。仮にも政治家である以上はだ、いかに聖人君子と言えども君、時に手を汚さなくちゃなんのだよ……。